

丹波



細胞破壊せず 耐久性や風合い良く 木材の低温乾燥施設 整備

低温で木材を乾燥させるバイオ乾燥機。府内で初めて導入された(亀岡市東別院町・三浦製材)



木材の付加価値を高めるため、亀岡市東別院町の三浦製材が低温で木材を乾燥させる施設を整備した。35度の低温乾燥で木材の細胞を破壊せず、耐久性や風合いの良い木材になるという。林業を巡っては、木材価格の長期低迷などで山林が放置されるケースや伐採しても植林されないケースが全国で広がっており、同社は「木材の価値を高めて良さを発信し、将来的に山林の保全につなげていきたい」としている。

亀岡の製材会社

「価値高め 山林保全へ」

導入されたのは、バイオ乾燥機(東京都)が開発した高さ、奥行き各4メートル幅15メートルの乾燥施設で、府内では初の導入という。細胞内で水が移動する理論を応用した施設で、一般的な乾燥機が80〜130度で乾燥させるのに対し、遠赤外線と超遠赤外線を使い35〜40度程度で乾燥させるのが特徴。9月27日の見学会に林業や建築関係者が訪れた。施設内に置かれた木材や室内の水分が、建物全壁面を覆う特殊内壁板を通じ毛細管現象のように建物外壁へとじわりとしみ出ている状況などの説明を受けた。

開発者の伊藤隼夫氏(小川卓宏)



バイオ乾燥機内部。遠赤外線などで温められた空気が対流し、特殊内壁材から水分が抜けていくという

京都新聞

10月12日
木曜日

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

〒621-0814 京都府亀岡市三宅町二丁目六番五号
(有)楠新聞舗販売センター
電話(075)221-4931(代表)